

体験を通して学ぶ

学校長 遠藤 淳子

正門脇のタイサンボク（泰山木）に、白く大輪の花が開いています。

9枚の大きな花弁がお椀のように上向きに開きますが、かなり高所に咲くために開花に気が付くのが遅かったかもしれません。正門付近で、登校してくる子ども達と朝の挨拶をしていると、柑橘系のとても良い香りが、さわやかな風に乗って門付近に漂います。タイサンボクは、6月～7月の初夏に咲くといわれていますが、ここの所の気候変動で、開花が早まっているのは桜だけではないのかもしれませんが。調べると、花言葉は、「前途洋々」「威厳」とあります。花を実際に間近に目にするとその理由が分かるような気がします。色とりどりに咲くアジサイ（紫陽花）同様に、季節の変化を伝えてくれる植物に、子ども達も目を止めてほしいと思っています。

地域・保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。子ども達は新年度を迎えて2ヶ月が経ち、それぞれの学年の学びを深めています。5月には、学校担当の指導主事や、学校運営協議会委員の皆様にご授業参観をしていただき、新年度を迎えた学校内の様子や、子ども達の様子を見ていただきました。指導主事、委員の皆様からは、「子ども達は落ち着いて過ごしている」「話を聞いてもらえる安心感が教室にある」「一年の成長を感じる」「目標が校内に掲示されており、常に目にすることは大事だと思う」「SDGsの取組はF・マリノスも取り組んでいる。何か連携できることがあれば嬉しい」等、校内や子ども達の様子の話から、今後の地域連携の話まで話題となりました。小机小ならではの地域の声と、とてもありがたい思いで一杯になりました。

健全な子どもの育成は学校だけでは出来ません。学校説明会でお伝えした通りですが、「学校」「家庭」「地域」が、子ども達をとりまく環境のトライアングルとなり、様々に導いていきたいものだと思います。小机小の子ども達は、とても素直で温かい気持ちをもっているなあと多くの場面で感じますが、時に感情のコントロールがうまくいかないことや、その場を弁えずに言動を取ってしまうことも見受けられます。社会で許されないことは学校内でも許されないということや、小学生だからよい、ということはない、という毅然とした指導を、どこの場面においても一貫してすることができたらと思います。家庭力、地域力とともに、学校力で子ども達の社会性を伸ばしていきたいと思っています。

6月には、水泳指導を予定しており、6年生の修学旅行や、5年生のスピーチコンテスト、4年生の「港北水と緑の学校環境学習講座」、3年生のまちたんけん等、2年生のサツマイモの苗植え体験に続いて、様々な体験を通じた学びが続きます。体験を通して人に出会い、人の生き方に学ぶことは、子ども達の人生に大きな影響を与えることでしょう。時に、人と協働する難しさを感じ、考えることも思考を柔軟にしていきます。与えられる課題の解決だけではなく、自ら問いをもち、誰かと一緒に課題を解決していく過程にこそ、いま求められている「未来を切り開く力」のヒントがあるのだと思います。学習材が豊かにある学区だからこそ、多くの地域の方が子ども達を見守ってくださる地域だからこそ、伸ばしていける資質・能力だと感じています。

どうぞ、それぞれの教育の場で、子ども達の様子をよく見ていただきながら、発達段階に応じた導きをしてくださいますよう、よろしくお願いいたします。